

A photograph showing three people in silhouette against a bright sunset sky. The person in the center is holding a large cross high above their head. The person on the left is holding a book, and the person on the right has their arms raised. The background shows a hazy landscape with mountains and trees.

こどもたちと
共に歩む
主イエスの道

アウトライン

I. 北海道の地方宣教

II. こども宣教・イッピースの歩み

III. 小さな者と共に歩む道





I. 北海道の地方宣教

鹿追町・白雲山から見た十勝平野

鹿追キリスト教会 十勝聖書フォーラム



ダントツで、最も田舎にある、最も小さな聖書フォーラム

鹿追町について



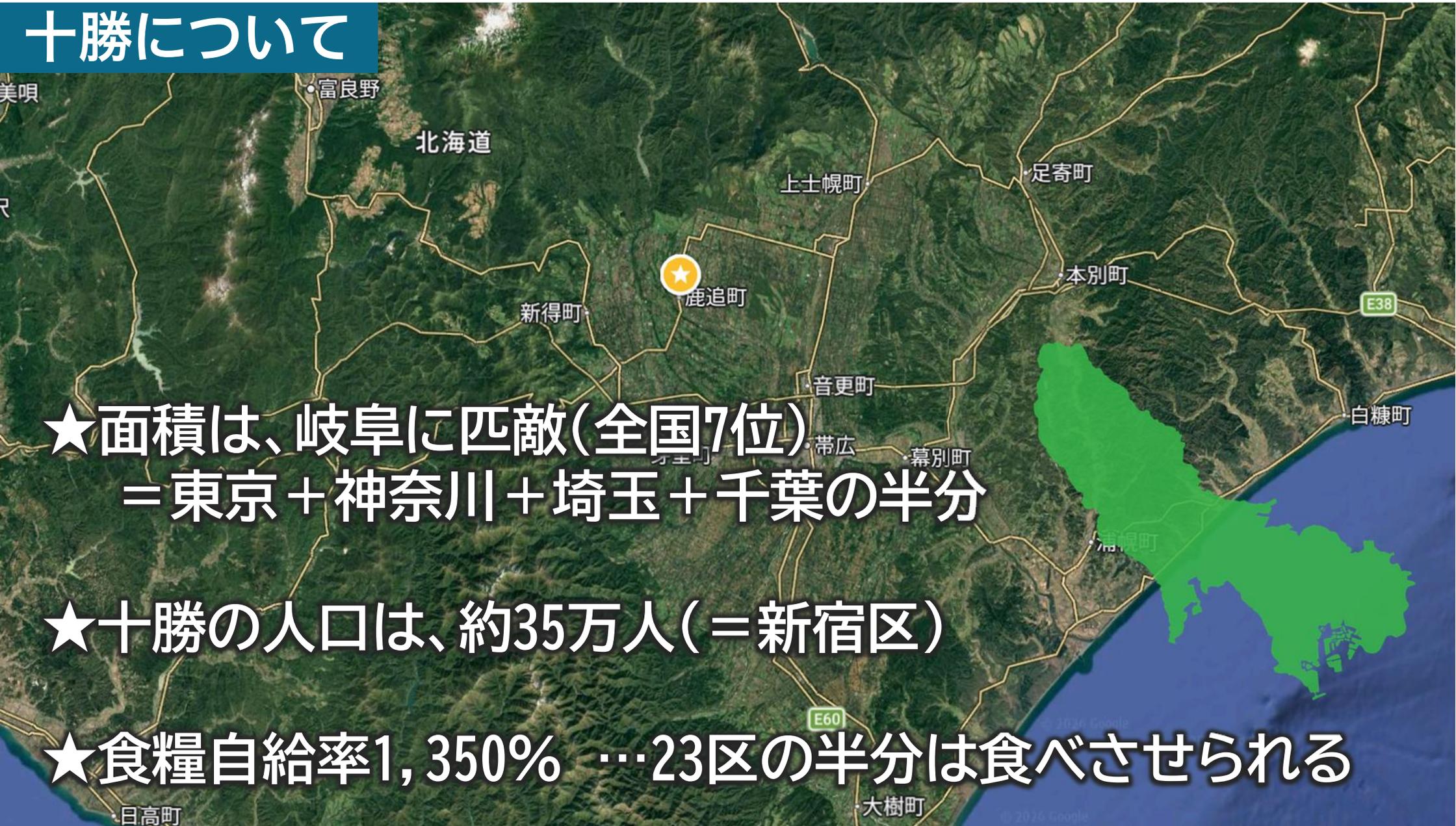
東京都23区の2/3の面積に、人口4,800人、牛3万頭。
(食糧自給率8,600%)
最寄り駅(新得町)から20km、徒歩250分(4時間)

十勝について

★面積は、岐阜に匹敵(全国7位)
= 東京 + 神奈川 + 埼玉 + 千葉の半分

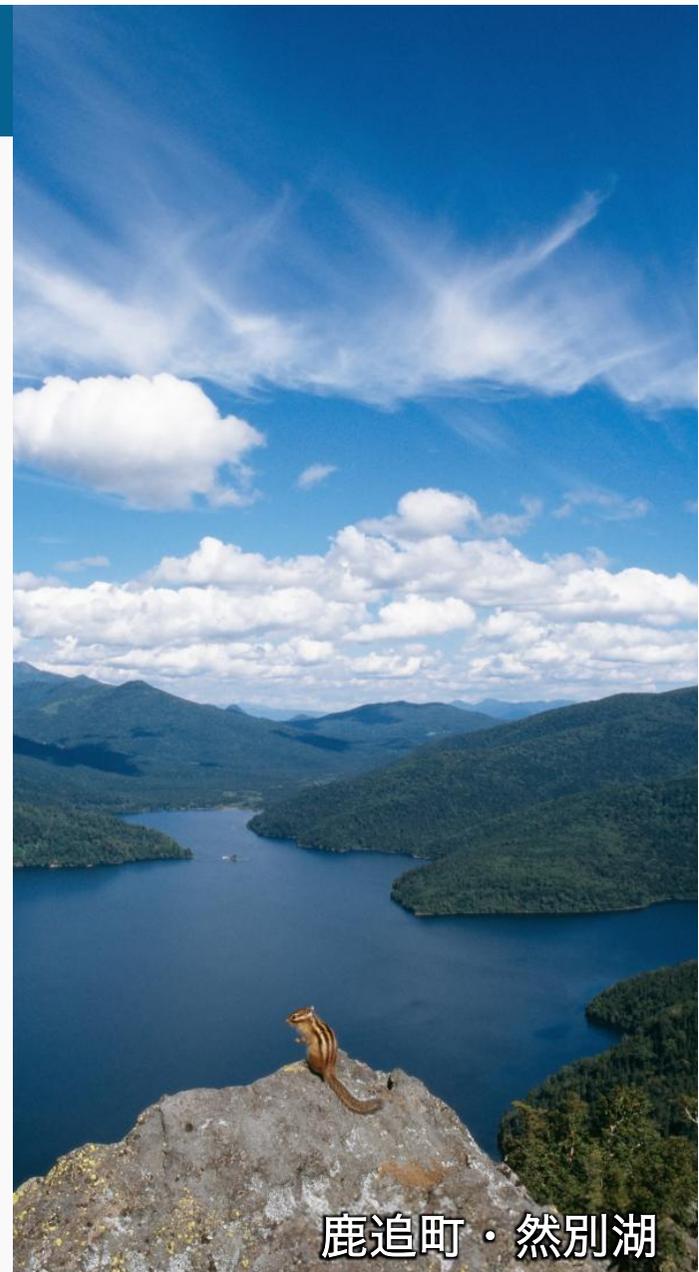
★十勝の人口は、約35万人(=新宿区)

★食糧自給率1,350% … 23区の半分は食べさせられる



地域宣教の現実から

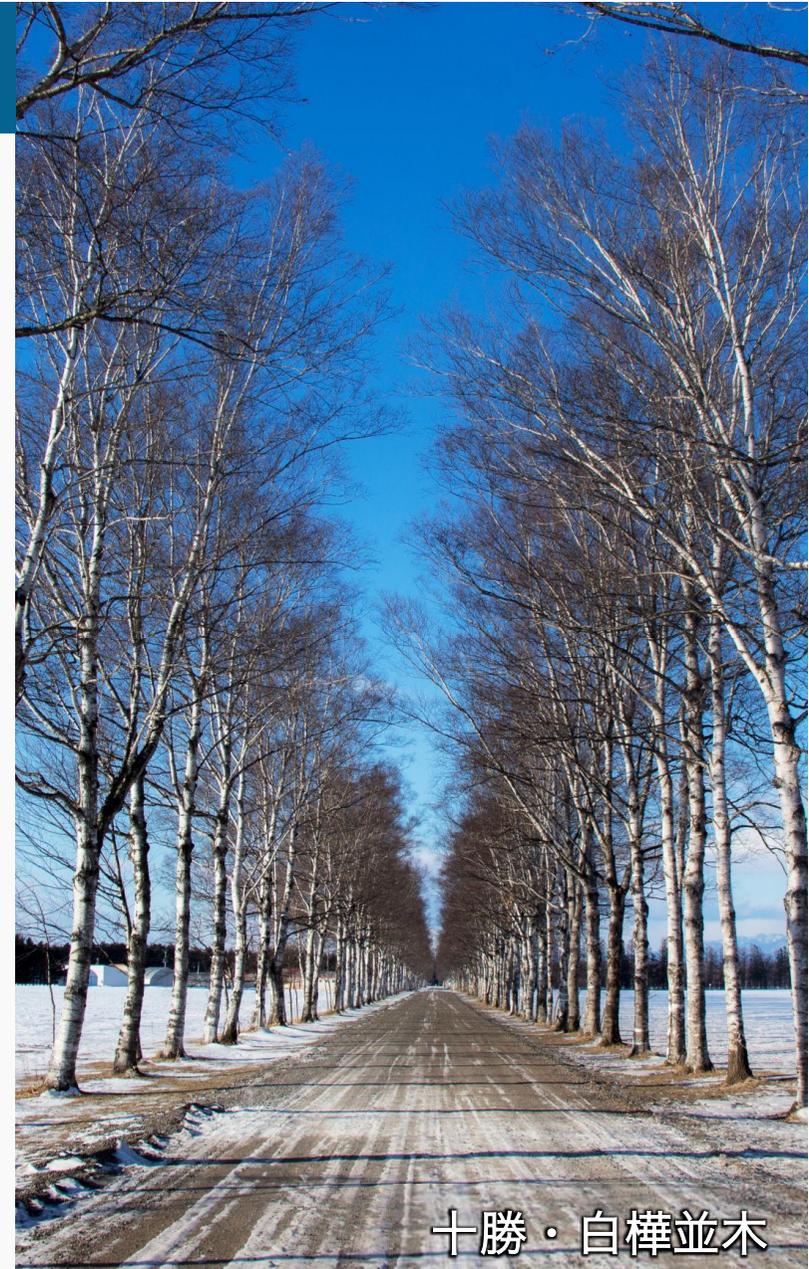
- 都市部の大教会など、絶対無理!!
好き好んで北海道の地方へ来て25年。
15,000人 → 5,500人 → 4,800人
- 聖書フォーラム参加前の試算…。
1千万人で300人 = 10万人に3人
200万の札幌 = 60人
35万人の十勝は、10~11人
5千人弱の鹿追は、0~1人
(※ハーベストタイムは北海道では未放送)



鹿追町・然別湖

二つ名の理由

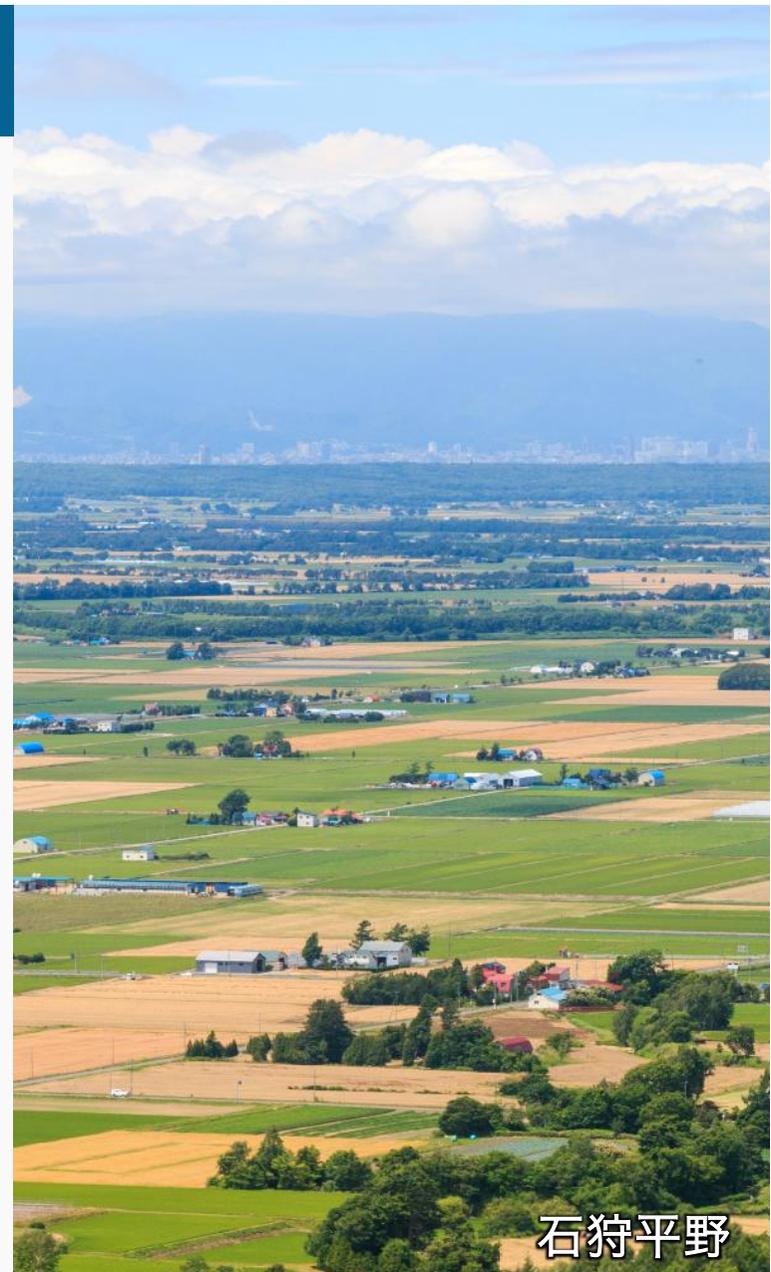
- 聖書フォーラムでの名称が、
十勝聖書フォーラム
→ “十勝”にこだわり
- 地元での未信者向けの名称が、
鹿追キリスト教会
- 町の歴史百年で初のキリスト教会。
文字通りの開拓。わかりやすさ命。
天理教の教会が多い。「キリスト」は必須。
→ ゆえの、キリスト教会、牧師
(以前の教団の教師職は正式に返上)



十勝・白樺並木

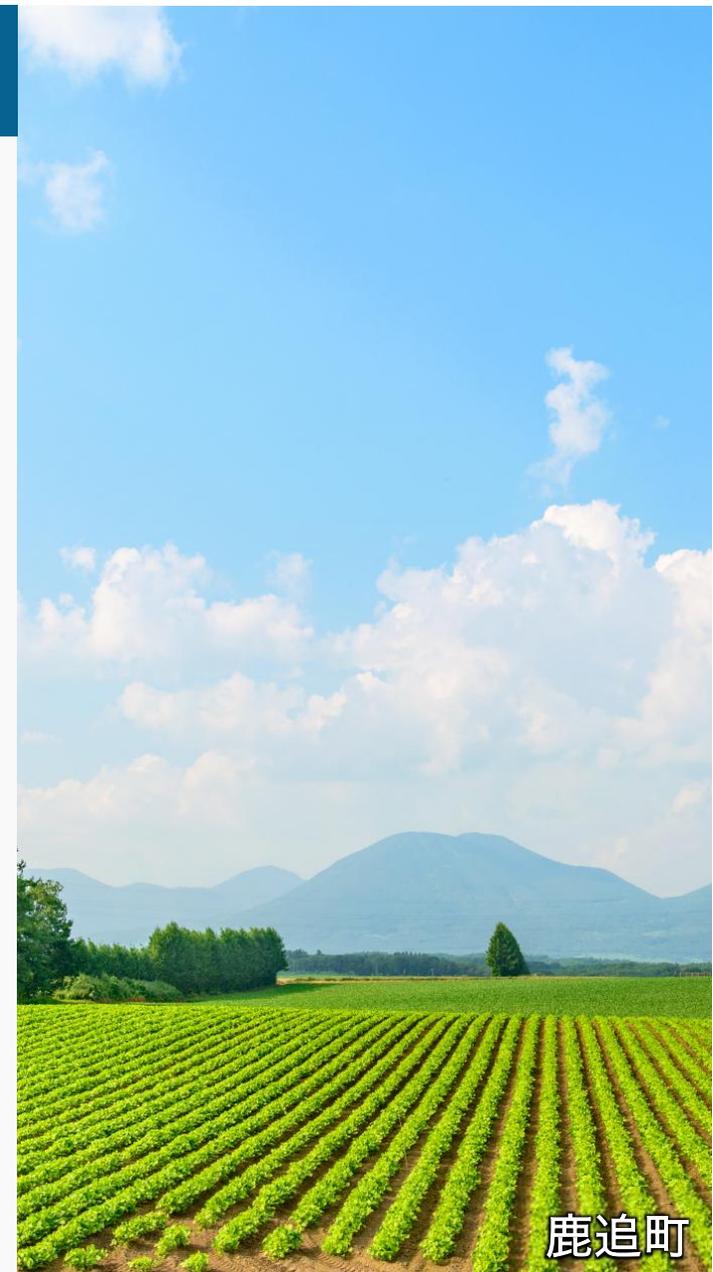
地域宣教の現実

- 最初に赴任した空知の教会で
当初の礼拝出席 …数名
娘の受洗 → 十年ぶりの受洗者
- 地方の教会に共通する課題
「苗床教会」→ 成長したら都市へ
地元民の教会への敷居の高さ
教会員の流動性の高さ



すべては地域宣教の視点から

- Youtubeのライブ配信の理由
道内半数以上の町村は教会なし
身動きのとれない厳冬期の吹雪
- 地元民にとっての教会の敷居の高さ
→ 気軽に中を覗けるように
- コロナ禍で視聴者が倍増
先見性があった？ → 想定外



地域教会であるということ

- 思い知らされた、
ネット上のつながりの脆弱さ。
 - ➔ 入れ替わりの激しさ
 - ➔ やはり地理的に遠すぎる十勝
- 長らく支援してくださる方々は、
足もとで地域教会とのつながりが。
- 地域教会とは本来、
その地域にいるキリスト者の群れ。
 - ➔ エペソにいるコリント教会員??

その地にあって
こそ地域教会



鹿追町

1. こども宣教・イッピのあゆみ

十勝・白樺並木

イッピーの活動

■ 毎週土曜日に活動。

中心は、みっちり**バイブルスタディ!!**

➔ヘブル的視点で。終末論もばっちり

■ 一緒に準備してご飯を食べる。

悩み事も本音も出る、大事な時間。

■ 小物づくり、時にはお出かけも。

■ 月に一度は、ライブ配信。

世界に発信!! 子どもたちが主体!!



イッピーのはじまり

■ 隣町の前任の教会で。道外から、キッズゴスペルチームを迎えてコンサート。

■ フィンランド発のキッズゴスペル。
(※イッピーは、ヤッターという意味)

■ **こどものこどもによるこどものための宣教**
コンサートも、こどもたちが主体になって!!

■ 参加した子が、家で友だちの前で歌ってる!!
→これは、教会でも始めるしかない!!



十勝の高原で

おどろき

- 息子の学年の子を中心に、地元の小学生が集うように。
- ある時、会の後、こどもたちが勝手に聖書輪読会を!!
「聖書読みたい？」 →ほとんどが、マイ聖書を購入!!
- 学校の自由活動の時間にも賛美していた子どもたち!!
→聖書も大好きで、信仰も育まれていった。
- そんな中、牧師の退任が決定。イッピー消失の危機!!
子どもたちを置いていけない!! →地元で開拓の決意。
→道が開かれ、隣町に鹿追教会が誕生。



こどもたちの成長

- ダウン症の息子・和実との支援つながりの子が多数。
ほとんどは、発達障害を抱えた子たち。
 - ➔ 多動なのに、バイブルスタディはじっくりやる子
 - ➔ 本は読めないのに、聖書は読む子
 - ➔ 宿題はできないけど、デボーションはする子
- 地元の支援関係者からも一目置かれるように!!
 - ➔ 教会に行くとこどもたちが変わる!!
 - ➔ クレーマーのモンスターペアレントが変わった!!



Rくんの話

- 最初来たときは小学校低学年
一瞬もじっとしてられない →でも聴いてる？
- 両親も発達障害。人前でも子を怒鳴る殴る。
学校では超問題児。からかわれてはキレて…。
教会でキレて、包丁を持ちだしてきたことも!!
- ある時、イエスの十字架と復活が分かった!!
その日を境に、暴言も暴力もピタッと止まった。
はじめて来た親子に、霊的配慮までするように。
→お母さんも福音を信じた。



こどもたちの試練と成長

- こどもに信教の自由はない?! 現実信仰ゆえに離された子たちも…。子どもたちも、悲しい別れを経験。
- SさんとYさん、第一志望に落ち、仏教系の私立と一緒に通うように。励まし合って歩んだ高校生活。主から離れてしまいそうな時も。信仰の戦いを共に乗り越えてきた。
- それぞれ家族にも認められて受洗イッピーに通い始めて10年以上!!



こどもたちに教えられてきたこと

■ 求めるものは大人と変わらない

→ 伝えることも当然同じ

救いも裁きも、終末論も

■ 口先だけでは、何も通じない

→ 誠実に向き合うしかない

→ 問われるのは大人の側の信仰



じゃがいも掘り

幸いだった こどもたちの環境

■ 未信者の家庭の子ばかり

本人の意志に委ねるしか!!

■ 主に託すしかない信仰の成長

➔ とにかく御言葉 聖書の学び

➔ 大事な食事の時間

分かちあい、励まし合って

互いに相談ごとも



他の教会でコンサート

とにかくにも御言葉!!

- メインは聖書の学び
- 大切なテーマは繰り返して。
罪と救い、福音、聖化、終末論…
初めてのの子がいれば、必ず福音を伝える!!
- 難しい言葉もそのまま伝えて大丈夫。
むしろ素直に、そのまま受け取る。
難解なことも、繰り返し話していたら、
子どもたちの方から成長して理解する。



バイブルスタディ

派遣されて成長する!!

■「始めて数ヶ月以内に派遣して!!」

→施設での子どもたちの姿に驚き

■子どもの記憶に残るのは、
大人が作った完成した行事じゃない。

→自分たちで考えて、実行したこと

■子どもが子どもに伝える力の強さ!!
つたないプログラムも主が用いられて



釧路のリユニオンカフェで

自発的に 喜んで

- 数年前の夏のキャンプ。楽しそうに準備を始めたSさん、Yさん。以来率先して、みんなのリーダーに。
- いろんな凸凹のある子たちをさりげなくフォロー。
- 決して無理強いせず、忍耐して。寄り添いつつ。一緒に歩む。なにより、喜んで。楽しんで♪



遣わされる信仰者を!!

- 過疎地のこどもたち。
進学や就職で、
いつか巣立っていくのが、前提。
いつまでも手元に置いておけない。
遣わされた先で仕える信仰者に!!
- 大学進学した、Sさん、Yさん。
全国の夏キャンプでスタッフに!!
こどもたちには「先生」と呼ばれて!!



夏キャンプ



Ⅲ. 小さな者と共に歩む道

子どもたちのように悔い改めて

■ 誰が一番偉い？ 弟子への答え マタイ18:23

イエスは一人の子どもを呼び寄せ、彼らの真ん中に立たせて、こう言われた。「まことに、あなたがたに言います。向きを変えて*子どもたち*のようにならなければ、決して天の御国に入れません。」

*“悔い改め”とは、方向転換

*パイディオン…生後間もなく…童謡を歌う年代…

悔い改めに早い子どもたち

- 耳に痛い話も、「あ〜っ」といいながら聞いて、すぐに悔い改めるRくん。
- 早い悔い改めの土台は、主への固い信頼。
「イエス様は絶対、僕を見捨てない!!」
→ 大失敗して凹んでも、微動だにしない確信
- 救いの確信あってこそその悔い改めと教えられる。

悔い改めに早いのは、確かな信仰の証し!!

子どもたちを来させなさい

■ 子どもを招かれた主イエス マタイ19:14

「子どもたちを来させなさい。わたしのところに来るのを邪魔してはいけません。天の御国はこのような者たちのものなのです。」

■ 積極的に、強く、子どもたちを招いた主イエス。
御国にふさわしいのは、自分の弱さを知っていて、主に従順に、主を求める、子どものような者。

主が招かれている子どもたち

- 子どもも、神を求める思いは大人と変わらない。無関心だったり、あざける子だっているけれど、自分の罪や、他者の罪に悩まされている子がいる。とりわけ弱い立場で、孤独にあえいでいる子がいる。
- 行動も意志も、制限されているのが子どもたち。子どもたちへの宣教は、地域教会の重大な使命。

主が招かれている子どもたちを招き入れよう

つまずかせる者の重い罪

■主イエスの厳しい警告 マタイ18:6

「わたしを信じるこの小さい者たち*の一人をつまずかせる者は、大きな石臼を首にかけて、海の深みに沈められるほうがよいのです。」

*弱い立場に置かれた人々の代表が、子どもたち

■大人の不信仰が、子どもをつまずきを招くなら、その責任は重大。

つまずかせる者を除かれる主

- 子どもたちと接する中で、露わになる大人の信仰。
 - …自分が可愛いだけの利己的な人
 - …口先だけで行動のまるで伴わない人
 - …平然と嘘をつく人もいたけれど
- 不思議と明らかになって、自ずと去って行った。
子どもたちを通して教会が守られてきた、とも。

主の教育と訓戒によって

■ 子どもの教育についての戒め エペソ6:4

「父たちよ。自分の子どもたちを怒らせてはいけません。
むしろ、**主の教育と訓戒**によって育てなさい。」

■ 未信者の家庭の子ばかりで幸いだっただ鹿追教会。
強制力は皆無。子どもたちの自主性に委ねるしか。

■ 集って来た子に伝えられるのは主の御言葉だけ。
聖書から語りかける意外にできることはない。

成長させたのは神

■ 成長させたのは神 | コリ3:6~7

私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、**成長させたのは神**です。

ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、**成長させてくださる神**です。

■ 子どもたちの成長に、驚かされるたびに実感!!
主が育んでくださっている!!

御言葉に育まれて行った子どもたち

「聖書はすべて神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練のために有益です。 II テモ3:16」

- キッズゴスペルとしてスタートしたけれど、いつしか聖書の学びが大半に。
- 子どもたちの心に響くのは、主の御言葉。学びを深めるほど、成長させられていった。

御言葉に刺し貫かれて

「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄を分けるまでに刺し貫き、心の思いやはかりごとを見分けることができます。ヘブル 4:12」

- 「あいたた」と声をあげ、顔をしかめる子たち。素直な反応に、大人たちの心も揺さぶられて。共に御言葉に刺し貫かれ、打ち砕かれてきた。

若い日に主を覚える幸い

「あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ。わざわざの日は来ないうちに、また「何の喜びもない」と言う年月が近づく前に。伝道者の書12:1」

- こどもの頃に、主を受け入れることの幸いは、最初から小さな者としての自覚を与えられていること。
 - ➔ 自分の弱さを思い知らされるところからのスタート

砕かれるほどに、小ささを自覚させられ、信仰は成長

心の貧しい者は幸い

「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだからです。マタイ5:3」

- 心の貧しさ、ちっぽけさ、力のなさ…。
誰よりも思い知らされる小さな者が幸いとされる。
打ち砕かれた心で、主に前にへりくだることで。

こどもたちの存在のゆえに

- 小さな町の、あまりに小さな教会が、今日まで支えられ、必要を満たされてきた。
- こどもたちの信仰のゆえに、主が憐れみ、慈しんで、守り支えてくださったのだと実感する。
- 小さな者たちの信仰ゆえに、イスラエルと世界が保たれているように。

小さな者に寄り添う道を

- 見捨てられつつある過疎地で、最も小さな存在として置かれている子どもたち。
- 小さな者に寄り添う術を、主イエスが教えられる。主は、家畜小屋で生まれ、名もない村で育まれ、辺境の地で、漁師や徴税人を弟子とされ、罪人と食事を共にされた。

主イエスは、その地で、人々と共に生きられた

★ 小さな者と歩む道 ★

- 見捨てられつつある地方で、
見捨てられた人々がいる。子どもたち、障害者…。
- 破れだらけの私だとしても、主の愛をもって、
誠実に、率直に、人々と向き合い、寄り添おう。
- 遣わされた地に、足をつけて歩む者と、
主が軛を共にして、支え導いてくださるから。
主が、定められた民を、必ず救いに導かれる。

てん とう わたし つみ
「天のお父さま。私たちの罪をゆるしてください。

わたし かみ こ しゅ
私たちは、神のみ子、主イエス・キリストが、

わたし つみ あがな じゅうじか し
①私たちの罪を贖うために十字架で死なれ、

はか ほうむ
②墓に葬られ、

みっかめ ふっかつ しん
③三日目に復活されたこと、を信じます。

こ あゆ わたし めぐ
子どもたちとの歩みが、私たちにとってはのほかりしれない恵みです。

こ しんこう しゅ ささ みちび
子どもたちの信仰のゆえに、主に支えられ、導かれてきました。

こ わたし ち つか もち
。子どもたちと共に、この地に遣わしてください。用いてください。

かんしゃ しゅ な いの
感謝して、主イエス・キリストのみ名によって祈ります。アーメン」